



ハタラボという「場」の力

NPO法人MStyle@こいだいら・ハタラボ

鴨志田結花

「場所」があることで、そこに人が集うことができる。あるCB（コミュニティビジネス）を支援している人の集まりで、「場所」の大切さが話題になりました。

ハタラボは、小平を中心にコミュニティビジネスの起業支援をしている、『NPO法人MStyle@こいだいら』の新拠点。私自身は関わり始めてまだ半年ですが、ハタラボという「場所」があることの大切さは実感しています。

「この建物は何だろう？」と声をかけてくださる方も少なくありません。「場所」があれば、必要な時に相談に乗ることも、講座の開催もできます。交流会を開けば集う人たちのつながりが生まれ、ミーティングを開いて事業構想を練ったり、ビジネスのヒントを交換したりすることもできます。どれもハタラボという「場所」があるからこそ、できていくことです。

ハタラボが、コミュニティの中で起業をしたい皆さんの拠点となるよう、より一層努力してまいります。

http://mstyle/hatarabo.wix.com/hatarabo

毎年、市民から募集したひびこ提案をもとに小平市に予算提案を提出しヒヤリングを行っています。

「コミュニティバス」「コミュニティタクシ」を知っていますか？

伊藤綾子

ひとこと提案をうけてコミュニティバス（コミバス）とコミュニティタクシー（コミタク）について市の公共交通課にヒヤリングに行きました。

コミバスは2004年から運行を開始し今年で10周年を迎えており、ルートは小平駅から一橋学園駅、中央公民館前、津田公民館まで循環しています。バスにはじバスの名のとおり虹と市の



栄町ルートを走るコミタクぶるべー号 白地にブルーベリー色が鮮やか。

キャラクターぶるべーも一緒に描かれています。

コミタク

は、「大沼ルート」「栄町ルート」で運行しており、昨年の11月からは「鈴木町ルート」が実証実験運行しています。

9人乗りのワンボックスカーで（デイスーパービスの送迎車のようなですが）誰でも乗ることが出来ます。

地域で支えて育てる「みんなの交通」とあるように、地域で望まれて走って

憲法@憲法

林周子

12月23日、憲法について考える集会に参加しました。特定秘密保護法・集団的自衛権・一票の格差の3点に絞って講師の小林節さんは立憲主義の視点から、伊藤真さんは国民主権の視点から意見を述べられました。

憲法は主権者である国民が権力を制限するためのものという原点を両者揃って確認し、特定秘密保護法には政府や官僚を監視する独立した第三者機関設置がないこと、抑制装置のない絶対的権力は絶対に腐敗することは歴史が証明しているとも指摘されました。

ではどうすればよいか？情報公開法と公文書管理法を整備することで保護法のチェックが可能らしいのですが、それには政治力が必要で現政権下ではありえない。だからこそ、今の野党のように負け癖をつけてはいけないのだそうです。

批判の声をあげ続ける行動が大事で、世論を気にする権力側には私たち市民の日々の地道な活動を意外に気にしているとか。

2014年もあきらめないで自民党憲法草案に異を唱えなくては！

編集後記
都知事が誰になろうとも、私たちは市民の声を届け、市民が主役で活動するのだ！

- 生活者ネットワーク3つのルール
- 議員は交代制(ローテーション)
 - 議員報酬は市民の政治活動資金
 - 選挙はカンパとボランティアで

小平・生活者ネットワーク
 発行責任者／打木香澄
 〒187-0045 小平市学園西町2-15-2 CB 一橋学園
 TEL&FAX 042-342-4494
 E-mail kodaira@seikatsusha.net
 http://kodaira.seikatsusha.me/

食品パッケージに
 「これは絶対に安全な食べものではありません」って書いてあったら買っつ？ 食べる？ 販売許される？ 原発の輸出って・・・



なんがへん

いるのが印象的で、地域住民から運転手の方にサンタの衣装をプレゼントしている場面も紹介されました。今回のヒヤリングでコミバス、コミタクが身近なものになりました。